

令和4年度

教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書

令和5年9月

吉備中央町教育委員会

I はじめに

このたび、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行いましたので、その結果に関する報告書を作成し報告いたします。

II 点検及び評価の方法等

1 対 象

令和4年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況

2 報 告

令和5年9月議会に提出

3 方 法

「施策」は、吉備中央町総合計画の重点施策に掲げている主な取組

「施策の内容」は、施策に係る具体的な取組内容や状況を記載

「成果と課題」は、実施した取組の成果と課題を記載

「評価」は、達成度についての内部評価を記載

A・・・十分な成果を得た

B・・・概ね成果を得た

C・・・成果もあったが、改善が必要

D・・・満足の得られる成果が見られず、事業の見直しが必要

E・・・事業の中止、廃止

4 公 表

教育委員会事務局での閲覧

町役場の掲示場に掲示及び町ホームページでの公開

Ⅲ 教育委員会の組織及び活動

1 教育委員会の教育長及び教育委員

職 名	氏 名	性別	任 期
教 育 長	石井 孝典	男	R 3. 4. 1 ～ R 6. 3. 31
教育長職務代理者	前田 文男	男	R 4. 10. 30 ～ R 8. 10. 29
委 員	禰元 幸治	男	R 1. 10. 30 ～ R 5. 10. 29
委 員	佐藤 節子	女	R 2. 10. 30 ～ R 6. 10. 29
委 員	沼本 聖子	女	R 2. 10. 30 ～ R 6. 10. 29

2 審議案件

開催日	主な議決・報告等事項
4月20日	規則改正、要綱制定、育英資金の貸付の承認等
5月24日	規則改正・制定等
6月22日	就学援助の認定、町指定重要文化財の指定解除等
8月24日	規則改正、育英資金の免除認定、教育委員会事務の点検及び評価に関する報告書等
9月28日	育英資金の貸付の承認等
10月26日	総合教育会議（全国学力・学習状況調査、小学校・園の統合等）
10月26日	文化財保護委員会委員の委嘱等
11月28日	教育支援委員会審議結果の承認、就学援助の認定等
1月18日	規定改正、指定重要文化財の指定等
2月15日	育英資金の免除認定、就学に関する許可、要綱制定等
3月 6日	要綱制定、小中学校人事、令和5年度予算等

3 研修会等

開催日	研修会等
7月15日	中国地区市町村教育委員会連合会研修大会（ZoomによるWeb会議）
11月30日	岡山県市町村教育委員会研修会（ZoomによるWeb会議）

4 学校訪問

開催日	学校
6月 7日	円城小学校、御北小学校
6月 9日	上竹荘小学校、豊野小学校
6月20日	津賀小学校、吉備高原小学校
6月29日	吉川小学校、大和小学校
7月 6日	下竹荘小学校、加賀中学校
9月30日	上竹荘小学校、豊野小学校
10月 5日	円城小学校、御北小学校
11月 1日	下竹荘小学校、加賀中学校
11月 4日	津賀小学校、吉備高原小学校
11月15日	吉川小学校、大和小学校

5 会議の運営等

本町の教育委員会は、定例会を年10回、総合教育会議を1回開催しました。会議は、概ね全員が出席し、毎回十分な時間を掛けて審議及び協議を実施しました。内容としては、教育行政の重点目標及び施策、人事、予算、就学、教育課程、学校の様子、学力状況等、多くの議題について検討され、慎重に審議しました。

教育委員は、県の研修会等に参加して識見の向上に努めています。また、町内小中学校を訪問し、教育活動を参観することで、現状の把握をし、取り組みの成果や課題を協議しております。

住民の意向や地域の実情に応じた教育施策となるよう、学校教育及び生涯学習の両面で今後一層工夫や改善に努めていきます。

IV 教育委員会が管理執行する事務

1 基本的・総務的事務

町では、第2次吉備中央町総合計画基本構想・後期基本計画（令和3年度～令和7年度）を策定し、「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」を将来像に掲げ、「子どもたちの笑い声があふれる懐かしく新しいふるさとの創造」の実現を目指し、町民と行政が知恵と力を出し合い、共に協力してまちづくりを進めております。その計画のなかで、教育委員会では、「教育環境の充実」を目標として取り組んでおります。

「町の将来を担う子どもを増やす」を重点プロジェクトに、①妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援、②教育環境の整備、③生涯学習の充実、④スポーツ・レクリエーション活動の充実、⑤青少年の健全育成、⑥地域文化の育成を目標に取り組んでいます。

子どもたちの教育環境の充実のため、町長からの諮問を受け、令和元年7月26日に「吉備中央町立小学校等の適正配置に関する検討委員会」において審議が行われ、令和2年3月17日に答申が出されました。この答申を受け、令和3年1月26日から「魅力ある学校・園を考える会」において、本町の未来を担う子どもの育成のためには、どのような新しい教育環境の整備が必要なのかを協議し、令和3年10月8日に「小学校及び園の統合のあり方についての指針」が提出され、令和7年4月に町立小学校を9校から3校に統合することが決定しました。

現在、令和7年4月の統合に向けて、「町立小学校・園統合準備委員会」の教育計画部会、施設整備計画部会、通学対策部会、校名・校章等検討部会、アフタースクール・放課後児童クラブ検討部会、園統合検討部会の各部会において具体的な検討を進めております。

2 人的管理に属する事務

本町の教育委員会は、教育総務班、生涯学習班が教育行政の基本方針や規則等の策定、制定、改正の原案を提案し、教育委員会において協議や審議をし、具体的な教育施策を推進してきました。

町立小・中学校教員の県費教職員の人事については、岡山教育事務所と連携を図りながら学び残しのない複式解消や特別支援教育の充実に向けた配置要望、課題である学力向上や問題行動の解決に向けた学校組織の強化に努めています。

また、個々の教職員の指導力向上を図るために、本町にある岡山県総合教育センターの講座をはじめ、校内外における研修等、多方面にわたって研修しております。学校運営に関しては、各校と町教育委員会が連携を図りながら、必要に応じて支援することと、学校長に対しては、必要な連絡、指導助言をしています。

また、GIGAスクール構想の推進として、児童生徒に1人1台のタブレットを配布し、積極的な活用を図るとともに、ルールづくりや教職員研修、環境整備等を進めることで、効果的な学習環境や、教職員の働き方改革にも期待できます。

特別支援教育については、教育支援委員会の判定状況から特別な支援を要する児童、生徒の増加が見込まれ、特別支援教育をさらに充実させるための体制づくりを図っています。県費負担教員の配置基準による教職員だけの指導が困難な場合、学校運営を円滑にするために町費による教育支援員の配置に努めています。

V 主要事業の報告

(1) 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 子どもが安心・安全に過ごせる環境整備			B
子どもの居場所づくり	○放課後の子どもたちの居場所として、小学校や地域住民と協働した「放課後子ども教室」で遊びや学び、体験活動、交流活動等を行うなど、子どもたちに安全・安心な居場所を提供します。 ○学校と公民館の連携による、子どもたちの学習の場、安心・安全に活動できる居場所の提供を図ります。	・大和放課後子ども教室(60名)、御北放課後子ども教室(20名)では、平日を中心に小学校等で開設され、多くの地区民の方に支えられながら子どもたちに安全、安心な居場所を提供しました。 ・公民館で習字教室を開催し、居場所の提供を行いました。	
(2) 教育・保育の質の向上			B
教諭の資質向上	○就学前教育アドバイザーの配置により、育てるべき力や保育のねらいなど就学前教育の共有を図り、小学校との連携、接続をスムーズに行います。	・公開保育研修会へ小学校教職員が参加し、就学前教育と義務教育との連携や円滑な接続について研修しました。	
(3) 支援が必要な子どもや保護者への対応			B
障害児施策の充実	○家族や地域、関係機関との連携等により療育体制の整備に努めます。 また、乳幼児期から学齢期まで切れ目のない一貫した支援を行うため、共通支援シートを活用し、関係機関との情報連携を強化します。	・新入学児童の学習の様子や学校生活の様子を関係者が参観する機会を設け、園と学校の連携を強化しました。協議資料として、共通支援シートを有効活用し、支援体制を強化しました。	
子どもの貧困対策	○子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、貧困の状況にある子どもが健やかに育成される環境を整備するとともに、教育の機会均等を図るなど子どもの貧困対策を総合的に推進します。	・経済的理由によって就学が困難な児童、生徒で、町内に在籍する小学生、中学生を対象に、就学援助制度により学校用品購入費等の支給を75名に行いました。	B

(2) 教育環境の整備

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生きる力を育む教育環境の整備			
教育内容の充実	○「知・徳・体」のバランスのとれた生きる力を育むために、町独自の学力調査を実施し、児童生徒の課題の把握に努めるとともに、支援員を配置し放課後学習サポートを推進します。 ○小規模化した小学校・園を適正に配置するために、学校等再編整備を進めて、魅力ある小学校・園の開校・開園を図ります。	・町独自の学力調査やGIGA スクール構想実現に向けた ICT 機器の有効活用の研修を実施し、教員の授業力向上のための取組を行いました。放課後学習サポートを実施し、個に応じた学習支援を行いました。 ・準備委員会を設立し、地域と学校の要望を吸い上げながら、一体となって、円滑な統合に向けた協議を行いました。	B
教職員の資質向上	○吉備中央町教育研修所の基本方針に基づいて、成果の上がった取組や事例の情報共有を図り、教師の教育技術の向上を推進します。 ○英語学習やプログラミング教育など専門性の高い教育の質の向上を図ります。	・吉備中央町教育研修所小中合同研究部会において、各校の学力向上に関する取組状況の確認と好事例の共有を行いました。研究指定校の加賀中学校において授業力向上に向けた研究を進め、授業公開を行いました。 ・ALT(外国語指導助手)3人体制で、1校当たり週2回勤務し、生きた英語による学びを深める機会を創出しました。 ・ICT機器を活用しながら、小学校算数の正多角形の作図をする等、プログラミング教育を進めました。	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
学校施設整備の推進	○ICT 教育に対応するよう、各教室で利用できるタブレットを配置するなど、学習機器の充実を進め、学習しやすい環境整備を推進します。 ○令和 7 年 4 月に統合し、新たに開校する小学校の学習環境の整備を推進します。	・児童生徒全員に学習者用タブレット端末を配備しており、教職員が授業でさらに有効活用ができるよう ICT 支援員と協力して、学習用ソフトの活用や他校の好事例を紹介し、学習環境を充実させました。 ・円城・豊野・吉備高原小学校の校舎内外装改修や体育館照明 LED 化を行いました。	A
国際教育の推進	○英語教育の充実に向けた環境整備や教職員への研修の実施を図り、「見る」「聞く」「書く」「話す」等の技能の向上を推進します。	・語学指導等を行う外国青年招致事業「JET プログラム」で普段聞く機会の少ないネイティブの英会話を通して、英語を聞いたり話したりする力が身につきました。	B
相談体制の充実	○スクールソーシャルワーカーを全小中学校に配置し、児童生徒への支援を進めるとともに、教職員の指導への助言も行います。 ○いじめ問題の実態について関係者での情報共有を図るとともに、教育相談やアンケートの実施によるいじめ問題の未然防止に取り組めます。 ○スクールカウンセラーを全小中学校に配置し、子どもの相談に対するカウンセリング機能の充実を図ります。	・スクールカウンセラー (SC) やスクールソーシャルワーカー (SSW) を全校に配置し、長期欠席や不登校等の特別に支援を要する児童、生徒への対応や家庭支援を行いました。 ・児童生徒へのカウンセリングや教職員への助言を行い、学校の教育相談体制の強化を行いました。 ・各校で教育相談やアンケートを実施し、いじめ問題の未然防止、早期対応に取り組めました。 ・SC、SSW の各校への配置時間を増加させるとともに、定期的に町教委・関係機関との連絡会を設け情報共有を行いました。	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(2) 家庭や地域の教育力の向上			
家庭における教育力の向上	○家庭学習強化週間を重点に、子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着を促すとともに、親育ち応援プログラムの実施促進を図り、家庭の教育力の向上を図ります。	・ 中学校の試験週間に合わせて、家庭学習強化週間を行いました。宿題の出し方等を工夫した取り組みを各校で進め、好事例の共有を行いました。 ・ 小学校1年生の保護者を対象に、町内のファシリテーターが親育ち応援プログラムを実施し、子育てに関する悩みや不安感を持つ親や家族の解消に取り組みしました。	B
地域における教育力の向上	○地域の豊かな自然や伝統文化を学ぶ機会を通して、地域住民による学習支援や体験活動の指導の促進を図ります。 ○学校評議員による教育内容の改善に向けた意見交換や地域学校協働活動を展開し、学校・家庭教育支援の取組を推進します。	・ 社会科や総合的な学習の時間の学習において、地域の方から学ぶ活動を実施し、町内の文化や伝統に触れる学習を行いました。3・4年生社会科副読本「岡山県のみんこ中吉備中央町」による郷土学習を進め、地域見学等も行いました。 ・ 学校評議員会や学校運営協議会を各校で開催し、学校が抱える課題や取組方針等について協議するとともに、地域住民の協力を得て、学校と地域の協働による登下校の見守り、本の読み聞かせ、野菜の栽培体験等の活動を行いました。	A
(3) 子どもの安心・安全の確保に向けた環境づくり			
通学路等の危険箇所の解消	○地域や保護者と協力して、通学路等の危険箇所の確認や解消に取り組めます。	・ PTA が通学路を点検し、危険箇所の要望書を提出して、早期解決に向けて関係機関に要望するとともに、注意喚起看板を町から配付し、各学校のPTAと協力して設置しました。	B

(3) 生涯学習の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生涯学習と地域コミュニティの形成			B
学習機会を通じた地域の絆の再構築の推進と地域課題の解決に向けた取組	○ライフステージに応じたパソコン講座等、多様な学習機会の充実を図るとともに、学習機会を通じて、地域のリーダーとなる人材の育成も促進します。 ○人口減少、少子高齢化社会の進行に対応できるよう公民館の在り方や団体・サークル活動のネットワーク化を推進します。	・公民館でパソコン教室やスマホ教室、各種講座を行い、学習環境を充実させました。 ・公民館では新型コロナウイルス感染症により、多くの行事が変更せざるを得なくなりましたが、感染状況に注意しながら、工夫して行事を行いました。	
(2) 学習環境の充実			B
ライフステージ等に応じた学習環境の整備	○ICT を活用した児童生徒の家庭学習の充実を図ります。 ○図書館の蔵書の充実と知的好奇心を満たすための講座開催や、新たな本との出会いにつなげる場所づくりを図ります。 ○公営塾で放課後の学習時間を確保することにより、学力の底上げを図ります。	・タブレットを家庭に持ち帰り、タブレットドリルの教材で宿題をしたり、家庭と学校とをリモートでつないでコミュニケーションをとったりしました。 ・書冊数は6万冊を超え他市町との連携もあり、貸借がより充実しました。講座はほぼ全て開催することができました(表1参照)。また、移動図書館車の導入、整備も行いました。 ・下竹荘公民館で、地域おこし協力隊員が月曜日から金曜日の放課後、英語と数学を教えており、1年生が13名、2年生が16名、3年生が13名の生徒が塾に通いました。学力向上に加え、妙本寺での特別授業等地域の特色を生かした学習支援に取り組みました。	

表 1 (図書館の状況)

日時	イベント名	内 容
4月～	新山ほほえみサロン出前	月に2回出前図書(移動図書館)
4月～	円城ももカフェ出前	月に2回出前図書(移動図書館)
4月～	吉備高原北部住区コミュニティ出前	月に2回出前図書(移動図書館)
4月16日	おはなしでてこい	歌と読み聞かせ
5月27日	絵本出版記念講演会	むかし話絵本の出版記念行事(立石先生のおはなし)
6月18日	体験ブッククラブ①	たなばたリースをつくろう
6月25日	土曜シネマ「コーラス」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
6月26日	身近なところから再発見	昔の文書の保存の仕方
7月23日	土曜シネマ「ダーウィンがきた恐竜超伝説」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
7月30日	図書館フェスティバル	絵本作家さんのワークショップ
夏休み	図書館お仕事体験(計4回)	小学生対象の図書館司書体験
8月27日	サマータイム朗読会	ゆう&ゆうの朗読会
9月17日	体験ブッククラブ②	昆虫食ってなあに?
9月24日	土曜シネマ「僕は猟師になった」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
11月5日	読書活動推進イベント「〇〇生活 in 妙本寺」	図書館協議会委員と共催
11月9日	認知症サポーター養成講座	町地域包括支援センターと共催
11月26日	土曜シネマ「クリスマスキャロル」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
12月10日	体験ブッククラブ③	クリスマストピアリーをつくろう
1月23日	福福来来	どんぶらこの語り
1月26日	土曜シネマ「アフガニスタン用水路が運ぶ恵みと平和 中村哲」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞
3月18日	体験ブッククラブ④	読書ノートをつくろう
3月25日	土曜シネマ「モダンタイムス」	図書館貸出DVDを大画面で鑑賞

(4) スポーツ・レクリエーション活動の充実

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 生涯スポーツの振興			
ニュースポーツの普及	○ニュースポーツの普及を図り、生涯スポーツを定着させるため、人材の発掘・育成に努めます。	・ニュースポーツの備品を定期的に小学校、イベントなどに貸し出し、体験を通して、普及、定着に取り組みました。	
団体・組織の育成	○事務手続きなど利用団体の負担の軽減を進めるとともに、人口減少に対応した団体・組織の運営を検討します。	・少子化の中、少年団を対象にしたスポーツ教室を開催しました。スポーツに触れることで、競技人口を増やす機会を創出しました。 ・体育施設利用許可申請書押印欄を廃止しました。 ・利用手続きにおいて、申請書の提出と支払いを、インターネットによる申込みや、コンビニ決済等により手続きを簡略化する必要性が課題と感じました。	
大会等への参加者数の増加	○新たな参加者を得るため大会の規模・日程等の開催内容を検討するとともに、多くの町民が参加できるよう広報に努めます。	・新型コロナウイルス感染症により中止していた行事を行うため、スポーツ協会主催の行事を感染対策・規模縮小しながら全て開催することができました。チラシを新たに作り、広報紙に封入して告知を行いました。	B
(2) スポーツ施設の充実			
計画的な修繕	○計画的な修繕等を行い安全で快適なスポーツの場の提供を図ります。	・加茂川地区のスポーツ公園の体育館の外壁(北側、西側)及び屋根ベンチレーターの修繕を行いました。また、体育館のトイレの洋式化、子ども議会の要望を受け、テニスコート横のスペースに3on3のバスケットコートの整備を行いました。 ・賀陽地区のスポーツ公園のサブグラウンド側トイレの修繕を行いました。 ・吉備高原グラウンドゴルフ場の連絡通路をゴムチップ舗装化しました。	

表 2 (開催状況)

日付	行事
6月12日	第16回吉備中央町ソフトボール及びバレーボール大会
7月10日	吉備中央町スポーツフェスティバル
8月27日 ～28日	吉備中央町バレーボール教室
10月9日	第34回吉備高原車いすふれあいロードレース
1月29日	第12回「晴れの国岡山」駅伝競走大会
2月12日	第13回吉備中央町早春マラソン大会

(5) 青少年の健全育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 青少年の健全育成活動の促進			
青少年健全育成活動の 充実	○各種のスポーツ少年団活動や文化活動、ボランティア活動、ちびっ子チャレンジ教室等の体験活動を充実させ、青少年がさまざまな活動ができるよう計画的に推進します。 ○中学生のヤングボランティアの力が十分発揮できる場を提供します。	・吉備中央町小学6年生みんなの絆づくり事業をコロナ禍で見直し、国立吉備青少年自然の家で29名の参加により日帰りで行いました。 ・ちびっ子チャレンジ教室を年6回開催し、多数の小学生が参加しました(表3参照)。中学生もヤングボランティアとして参加し、37名が運営をサポートしました。	B
青少年相談員連絡会の 充実	○青少年の健全育成を推進するため、青少年相談員連絡協議会等の組織の活性化を図るとともに、相談員の質の向上を図ります。	・協議会(オンライン等)を開催し、講演の視聴、相談員の活動について意見交換を行い、見聞を深めました。	B

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(2) 各種機関との連携の充実			B
家庭・地域・学校との連携	○地域ぐるみで子どもを育てるよう地域学校協働本部を中心とした家庭・地域・学校の連携を継続するとともに、多様な関係者（保護者、教職員、地域住民等）が集まり、課題解決を目指す「熟議」によって、より連携を深めます。	・コミュニティスクールの導入を令和4年度から随時行いました。令和5年度すべての小学校で設置する予定です。 ・中学校についても令和6年度からの導入に向け協議を重ねています。	
相談体制の充実	○青少年相談員制度の周知を図り、保護者や子どもたちが悩みなどを相談できる体制を整備します。	・「広報きびちゅうおう」への掲載や、各学校でチラシを配布し、制度の周知を行いました。	B

表3 (ちびっ子チャレンジ教室)

日付	内容
7月 2日	ジャムキット&ブルーベリー狩り！
9月10日	オータムアレンジメントに挑戦！
10月29日	ニュースポーツに挑戦！！
11月19日	アスレチック遊びと焼きいも作り！
12月17日	よく飛ぶ凧を作ろう！
1月21日	防災教育体験！（親子で参加しよう）

(6) 地域文化の育成

施策	施策の内容	成果と課題	評価
(1) 文化財などの保存・継承			C
文化財の保存・活用の仕組みづくり	○町「文化財保存地域活用計画」を策定し、町全体で文化財の保存・活用する仕組みづくりを行います。	・前年度に引き続き、町内の文化財の現況を確認し、策定に向けて情報を収集しました。	
町文化財の把握促進	○地域の指定・未指定の文化財の把握に努め、資料のデジタル化を促進します。	・前年度に引き続き、デジタル化に向けて台帳の整備の検討を行いました。	C

施策	施策の内容	成果と課題	評価
町文化財資料の活用	○学校や公民館等での学習機会を増やし、それら学習機会への積極的な資料提供により、授業・体験に活用していただきます。	・学校の校外学習で、お祭り会館、加茂川歴史民俗資料館の見学など、直接目で見て体験できる授業を積極的に行いました。	B
無形民俗文化財の保存・継承	○無形民俗文化財の周知や担い手の育成など、伝承活動に取り組んでいる団体へ引き続き支援を行い、地域に伝わる伝統芸能の保存に努めます。 ○伝承活動している団体にご協力いただき、次の世代を担う子どもたちに学校や公民館の学習の場で地域の文化を継承します。なお、その活動を通して子どもたちの郷土愛だけでなく、地域の大人たちとの関わりの中で社会性や自主性を育むことが期待されます。	・前年度に引き続き、県指定無形民俗文化財の備前加茂大祭、吉川八幡宮当番祭、川合神社だし献燈祭は、新型コロナウイルス感染症により、規模は縮小したものの、地域の文化を伝承支援していけるよう、必要な支援を行いました。	C
(2) 地域文化の育成			C
各種団体への支援	○町文化協会や公民館等の文化芸術活動を、広く町民に周知します。 ○各種団体の発表の場を提供し、活動の機会を増やします。	・総合文化祭を開催し、地域の文化芸術の伝承支援をしていけるよう必要な支援を引き続き行いました。 各公民館の文化祭は、展示物を中心に実施しました。 また、各種サークル活動への支援も継続して行いました。	
学校での文化芸術鑑賞の機会の提供	○各学校に国や県の事業情報を提供するとともに、周知の方法を工夫することで、児童生徒の鑑賞の機会を確保します。	・岡山県の文化芸術による子ども育成総合事業（芸術家派遣事業）で、講師を招いて音楽や演劇を公演しました。	

VI学識経験者の知見の活用

地教行法第26条第2項に基づき、中国学園大学・中国短期大学副学長兼国際教養学部長 杉山慎策 氏、元町立小学校長 宇野和行 氏 に点検及び評価に関しての助言及び意見をいただきました。

○中国学園大学・中国短期大学副学長兼国際教養学部長 杉山慎策 氏

令和4年度における吉備中央町の教育行政については、コロナ感染症の蔓延などの外部要因により多大な影響を受ける中で、小学校の3校への統合に向けて着実に準備を進められているようでご苦労も多いことと拝察申し上げます。全般的には主要な事業は、ほぼ実施され成果をあげられていると評価します。

昨年もお願いましたが、結果を客観的に評価し、町民全員に開示し、参画を求めるためには、それぞれの主要事業項目について数値目標（KPI）を設定することが望ましいと考えます。今年度一部の項目については数値が明示されているのでご配慮いただいていると感じていますが、各項目については是非次年度数値目標の設定をご検討いただければ幸いです。以下主要項目について項目別にコメントさせていただきます。

（1）子どもが安心・安全に過ごせる環境整備

全体的に（B）の評価となっており、目標をほぼ達成されたと判断します。子供の貧困問題は社会の大きな課題です。吉備中央町では小中学生の生徒の誰一人取り残さないようにきめ細やかな対応をお願いしたいと思います。

（2）教育環境の整備

全体的に（B）と（A）の評価となっていて目標を達成されたと判断します。特にICT教育はタブレット端末を生徒全員に配布することとICT支援員を配置することで学習の充実を図っていることはとても優れた試みだと評価します。

また、故郷である「吉備中央町」を学ぶ「岡山県のまん中吉備中央町」の取り組みも高く評価すべきだと思います。将来「吉備中央町」に残ったり、戻ってくる場合、この故郷を学ぶことにより醸成される知識や経験はかけがえのない財産だと思います。韓国の伽耶の国につながる賀陽一族の中には臨済宗の開祖栄西もいます。地域の歴史や文化を大切に継承して行っていただければと思います。

（3）生涯学習の充実

全体的に（B）評価とされており、目標をほぼ達成されたと判断します。生徒に配布されたタブレットを家庭に持ち帰り、家庭と学校を繋ぐ試みはとてもよい取り組みだと思います。また、図書館の充実も進め、移動図書館などもとてもよい取り組みだと思います。

公営塾を開くことで都会の生徒に比べ不利な立場にある生徒に対する学習機会

の提供は重要な取り組みだと判断します。

(4) スポーツ・レクリエーション活動の充実

団体・組織の育成の項目が評価 (D) となっていて、改善が必要と判断しますが、それ以外は (B) 評価で目標を達成したと評価します。(D) 評価の項目についても、体育施設の利用をインターネットやコンビニ決済など時代の変化に合わせて簡素化する必要があるとされており、新年度 DX 化を進め住民の皆さんがより施設の活用を進められるように希望します。

(5) 青少年の健全育成

全体的に (B) の評価で目標を達成していると判断します。特にコミュニティースクールの導入を進めていることを高く評価します。ジョン・デューイの教育論で強調されているように地域社会との連携は非常に重要と考えます。

(6) 地域文化の育成

全体的に (C) と (B) の評価となっていますが、コロナ禍の影響もあり、全体的には目標をほぼ達成していると判断します。吉備中央町の文化財のリストアップとデジタル化を是非進めていただければと思います。また、コロナ禍が終息すれば是非無形文化財の保存・継承に取り組んでいただければと思います。人口減少下なので絞り込みが必要になるかも知れませんが、住民の皆さんを巻き込んで決めていただければと思います。

最後に、令和 4 年度もコロナ禍での事業推進という異常事態の中で、多くの苦労があったと推察します。令和 7 年の小学校の統合に向けて、事務の一層の効率化を推進し、教育の DX 化などに対応できる体制の強化を進めて欲しいと思います。

○元町立小学校長 宇野和行 氏

1 学校教育について

昨年度に引き続き、小学校、中学校全体的に充実した環境の中で、落ち着いて学習に取り組んでいる様子が伺えます。教育委員会をはじめ、各学校での取り組みが着実に成果をあげ、子ども達に寄り添ったきめ細かい指導がなされていることは、大いに評価できると考えます。学校教育においては、児童・生徒が自らの力を発揮できるよう、落ち着いて学校生活を送っていることが何よりも大切です。今後においても引き続き、一人一人の児童・生徒に寄り添いながら教育の向上を目指して取り組んでいただきたいと思います。

また、学校の施設整備の推進について、小・中学校に学習者用タブレット端末を整備し、ICT 支援員と協力して学習用ソフトの活用や他校の好事例を紹介して実践するなど、さらに児童・生徒一人一人に対応した教育の推進を行っていて、大いに評価できる

と考えます。

なお、学力の向上については、吉備中央町教育研修所とタイアップし、基礎基本の学力として、例えば「読み・書き・計算」、「努力すればできる・あきらめずに最後まで頑張る・自分の思いを伝える」など、町独自の学力として掲げ、教育の流行り廃れに左右されない、子ども達の未来に繋がる指導がなされることが望まれます。

一方、子ども達が安全で安心して学校生活が送れるよう、SC・SSWの配置時間を増加させ、定期的に教育委員会や他の機関と連携を深め、情報共有することに努めたことはとても大切なことで、今後も継続して取り組んでいただきたいと思います。また、令和7年4月の統合の前後には、子ども達の心のケアがさらに必要であると考えられるため、より一層の充実が必要と思われます。

地域における教育の向上については、学校評議員会や学校運営協議会を開催し、学校が抱える様々な課題や取り組み方針などを地域住民と協議することでその成果が上がっていると考えます。地域住民は学校が抱える課題や取り組み方針を知ることにより、その課題を協議する中で自分達の力が発揮でき、意欲的に課題解決に向けて取り組んでいると思います。今後も遠慮することなく、地域住民に学校の課題などを伝えていただきたいと思います。そのことによって、地域住民の教育力もアップすると考えます。

令和7年4月には、小学校の統合が控えおり、教育委員会・学校において、昨年度に増して、着々と準備が進められていることは大いに評価したいと思います。また、各地区の学校とそれぞれの地域は、地域の文化的行事や伝統的な行事、歴史的な人物などと密接に結びついているところがあります。そのための準備も計画的に具体的に検討されつつあり、これも評価したいと思います。今後も地域住民、保護者の意見に耳を傾けながら、統合に向けて取り組んでいただきたいと思います。

2 生涯学習について

図書館については、蔵書が増え、計画した講座をほぼ全て開催するなどに加え、移動図書館車の導入・整備も行ってきたことは、大きな成果であると考えられます。今後は、それらの取り組みを評価し、その成果と課題をもとに、今後の取り組みを行っていくことが重要であると考えます。また、「吉備中央町の昔話」など、町民にさらに親しみやすい図書館とするため、ネット配信などを含め、デジタル化する方向も検討してはどうかと考えます。

生涯スポーツの振興については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となっていた事業が多い中で、令和4年度に多くの事業、大会が開催できたことを高く評価したいと思います。中止していたものを再び開催するためには、通常の何倍ものエネルギーが必要だったと考えられます。今後も各組織や活動自体が衰退する傾向のなか、スポーツ・リクリエーション活動の充実に向けた取り組みをどうすればよいかが課題であると考えられます。

加茂川地区スポーツ施設・賀陽地区スポーツ施設など、計画的な修繕や新設を行い、屋根の修繕、トイレの洋式化、3 on 3 施設の新設、グランドゴルフ場の連絡通路のゴムチップ舗装化など、施設の充実が図られたことを高く評価したいと考えます。また、利用者の新たな手続き上の要望などにも耳を傾けるなどきめ細かい配慮が伺え、評価したいと考えます。

青少年の健全育成活動の促進については、町内の青少年の課題や問題について組織を超えて協議する場があまりなく、貧困やヤングケアラー、引きこもりなどの課題が共有化されていないのが実態であると思われます。特に中学校を卒業してからの青少年の実態が把握できていないと思われ、各部署とも住民からの相談などがなければ動けないのが実態であると考えられます。町内の青少年の課題や問題を支援するためにも青少年相談員連絡会の組織の充実と拡大された協議会の充実が大切であると思われます。

文化財の活用と保護、資料の整備・活用については、デジタル化に向けた取り組みが始まっており、期待されるところであります。しかし、吉備中央町には縄文時代や弥生時代からの歴史的な遺跡や遺物がたくさんあり、正式な学術的調査や整備がなされていないことも実態であります。この他にも歴史的な建造物などもあり、文化財としての価値を調査する必要がある箇所が幾つも存在していると思われます。

吉備中央町の文化遺産を未来へ継承する意味において、町教育委員会としての「地域の文化財を未来につなぐ」ための基本的な計画が必要と考えます。その計画のもとに専門の学芸員資格を持つ町職員を配置するなど、従来の工夫と努力の文化財の継承・保護だけではなく人的配置が必要と思われます。

VII 終わりに

令和4年度の本町教育委員会事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を実施し学識経験者の助言などを報告いたしました。

新型コロナウイルス禍において、今まで中止になっていた大会・イベント等が、吉備中央町内においても、徐々にではありますが感染症対策を徹底しながら開催され始めました。

また、令和7年4月の小学校統合に向けて、町立小学校・園統合準備委員会等で検討が進められ、着々とより良い教育環境となるよう準備が行われます。

町の総合計画の「22世紀の理想郷（ふるさと）吉備中央町」の実現に向けて、今後とも教育委員自らが点検及び評価をし、教育委員会を充実させ、学校教育、社会教育、文化、スポーツ等に関する事務を担当する機関として、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて具体の事務を滞りなく執行できるよう、引き続き努力したいと考えております。